



〈25〉



夜泣き石

商店や住宅が立ち並ぶ市街 ほぼどの巨石がある。石の上の地 一角。通りに面した駐車 には一体の地蔵。地元では場の奥に、全長七尺、高さ二

時代の水害にまつわる悲しい物語を伝える。  
一七二五(正徳五)年夏、未(ひつじ)の満水と呼ばれる豪雨災害が伊那谷を襲い、天竜川流域で大規模な洪水が起きた。  
この際、野底川上流の山崩れで川がせき止められ、川幅の数十倍に広がった激流による土石流が発生。逃げ遅れた

# 水害の悲しい物語伝承

(飯田市上郷別府)

## 夜泣き石



野底川上流から土石流で流されたとされる夜泣き石。子どもの霊を慰めた地蔵が載っている—飯田市上郷別府で

子どもが、流されてきた巨石の下敷きになって死んだ。その後、石の下から子どもの泣き声が聞こえるようになったため、地元の人たちが地蔵をまつって供養したという。  
地蔵は毛糸の帽子と麦わら帽をかぶり、よだれかけを着けている。石の上には、だれかがペットボトルのお茶を供えていた。  
これだけの巨石が運ばれたとすると、土石流は想像を絶する勢いだったに違いない。今も守られ続けている地蔵の姿に、災害に負けなかった人たちの強さと優しきを感じた。  
(中山道雄)